

# 復興県民会議だより

〈発行〉東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議 No.24 (15・3・19)

〒020-0015  
盛岡市本町通2-1-36  
浅沼ビル6F  
電話・FAX(兼)  
019-601-5133  
メールアドレス

fukkou\_ikg@hyper.ocn.ne.jp

## 「東日本大震災津波4年のつどいin陸前高田」に230人を超える参加 オープニングは、米崎小学校6年生、22人による勇壮な「重倉太鼓」 ～戸羽市長記念講演、まちづくり・住宅再建・見守りの各活動報告～



### 東日本大震災津波から4年、陸前高田市で初の集いとなる取組



3月1日曜日、雨降りという天候のもと、JAおおふなとの高田営農指導センター（昨年10月オープン）の研修室において「4年のつどい」を230人を超える参加

で開催しました。

渋谷代表世話人の進行で、冒頭に黙とうを行ったあと、オープニング企画として米崎小学校6年生22人による「重倉太鼓」が演奏されました。

東県民会議代表世話人が、共催した地元陸前高田地区実行委員会に感謝をのべるとともに、2月13日に実施した国会総行動など生活再建支援金増額実現に向けたたたかいなど主催者挨拶をしました。前日から被災地調査に入っていた日本共産党小池晃参議院議員、小田川義和全国災対連代表世話人のお二人が来賓挨拶



挨拶を行いました。（小田川義和さんの挨拶文とメッセージを寄せて頂いたを国会議員の紹介は別記）

### 戸羽太陸前高田市長が記念講演 「復興の現状と課題、そして希望ある未来へ」と題し



戸羽市長は午前中、仮校舎で高田高校の卒業式に出席をしてきた。将来を担う子どもたちの声や思いを大切にしたいと

述べました。今、「政治とは何か」が問われている、復興に向けて国のリーダーシップが必要。自らの体験から、「ノーマライゼーションという言葉がいろいろなまちづくりをめざしたい。人口減少問題



## 市内の復興に関わって活躍されている4氏がリレートーク



**伊藤 孝さん**（市商工業復興ビジョン推進委員会委員長）

**武蔵富士夫さん**（市建設業協会住宅再建推進協事務局）

**長谷川利尚さん**（市民生部長・被災者支援室長）

**安田留美さん**（市社会福祉協議会主任・生活支援担当）

**進行役 齊藤信常任世話人**（日本共産党県議団長）

戸羽市長の講演後、齊藤信常任世話人の進行で地元実行委員会からお願いをした4氏から復興にむけて関わっている分野・部署を通して見える現状や課題を語って頂きました。伊藤さんは商店街づくりはスタート時点で4～5割程度が、住みやすい、買い物がしたくなるように引き続き努力したいと。武蔵さんは市内500世帯からのアンケートで約8割の方が市内を希望している、良質で仕入れ単価も安くなるように地元業者の取組を地域説明会などを通して紹介していること、また、長谷川さんは土地区画など敷地造成の取組や市独自の助成について「住宅再建が復興の基礎」という立場で取り組んでいると行政の立場を説明、安田さんは20名の支援員が、市内世帯を対象に月1～2回訪問活動、仮設など週1回程度の見守りを行っている生活支援員活動について、4氏がそれぞれ報告しました。

### 会場から、4人の方が発言



会場参加者からの発言では、被災者生活再建支援制度の拡充、支援金を現行300万円から50

0万円に引き上げるため「100万人署名」を取り組んでいる「住宅再建推進協いわて」の活動の紹介、シャッター通りとはならないよう商店街の復興にむけた取組、災害公営住宅における高齢者同士のコミュニティ確保のため階ごとに相談室などの設置が必要だ、土地の買い上げ代金をもとに再建を考えていたところ、土地所有が明治までさかのぼった、どうしたらよいかという相談を最近受けた、被災直後の被災者が服用していた薬が手に入らずにたいへんな苦労した経験がある、今後の被災者救援策に生かしてほしい、と4人の方から会場発言がありました。

これらを受けて、進行役から発言を求められた4氏は、3年も経過することで住民感情がいろいろ出ている、日中一人で暮らすお年寄り、交通の便が悪く買い物難民に、コミュニティづくりが重要。相談会を通して住宅建設10棟を注文、2棟が完成している。土地が決まらないなどの問題もあるが、協議会として受注できるようにしたい、再建には資金の確保が必要、補助金の対象にならない店子のケースも、人口減でも継続してやっていけるだろうかなど目に見えない不安がある、気持ちを切らさないように引き続き努力したいと発言をしました。

陸前高田市の復興は、これからという厳しい現状の中で、各分野・部署における取組から感じていること、活動してきた中で得た、貴重な話などを聞くことができました。協力頂いた4氏に感謝を申し上げます。

### 県民会議の行動提起を提案

鈴木復興県民会議事務局長が今後の行動について、一つは、被災者生活再建支援金を500万円に引き上げを求めた取組。二つは、応急仮設団地訪問・懇談活動の継続、三つは、仮設団地、災害公営住宅団地内の絆やコミュニティづくりを支援する体制の強化を求める取組、四つは、復興県民会議の6項目請願署名を進める、以上を提起しました。

### 憲法を復興に生かす視点が大切



つどいの閉会挨拶を加藤代表世話人が行いました。戸羽市長の講演は参加者に確信を持たせてくるものだった、被災から4年、復興をめざす上で憲法を生かす視点が大切、引き続き被災者本位の復興をめざそうと挨拶をしました。

## 「東日本大震災津波4年のつどいin陸前高田」へメッセージを お寄せ頂いた国会議員のお名前紹介

(当日、メッセージ集として参加者に配布しました)

衆議院議員	黄川田	徹
衆議院議員	階	猛
衆議院議員	高橋	千鶴子
参議院議員	大門	実紀史
参議院議員	紙	智子
参議院議員	平野	達男
参議院議員	主濱	了

### 小田川義和全国災対連代表世話人挨拶

(2015年3月1日 「東日本大震災津波4年のつどいin陸前高田」における激励挨拶で)

まもなく4年目の3・11を迎えようとしています。あの日、突然の災害で命を落とされた、あるいはその後の困難な避難生活の中でお亡くなりになられた方々に、深い哀悼の意を表します。

あわせて、苦しみを乗り越え、一日も早い復興に力を尽くされているみなさんに、心から敬意を表します。

私たち全国災対連は、医療関係の団体、農民団体、労働組合などが参加をし、災害被害者支援と復旧に力点を置く不十分な被災者支援制度の拡充を求める取組を続けている団体です。結成のきっかけは、20年前の阪神淡路大震災でしたが、その後の相次ぐ地震災害や台風、洪水、噴火などの災害での、発生直後には結集する団体が力を合わせて被災者支援に取組、救援物資を送り届け、同時に、生活再建のための制度の拡充を政府に求める取組を、被災者のみなさんと一緒に取り組んでいます。

先月、2月13日にも、被災者生活再建支援金の上限500万円への引き上げや、被災者の医療費無償制度の継続、2015年度、来年3月までとされる集中復興期間の延長などをもとめ、国会要請や省庁交渉を支援させていただきました。

4年前の大津波の後、この陸前高田には、自治体労働者の組合、自治労連が復興支援に全国からのボランティアを集中させ、復旧のお手伝いをさせていただきました。他の労働組合は大船渡での復旧支援に取り組みました。その際、大震災からひと月後の4月初旬に、私も、大船渡からここ陸

前高田の被災状況を直接目にし、あまりの被害の甚大さに声を失ったことを思い出します。

海に沈み、照明塔だけが頭をだしていた高田松原第一球場、建物が消え去った中に残っていた飼料サイロ、など、生々しい記憶として残っています。

4年が経過をしてお邪魔をし、4年の時間の早さと長さを同時に感じました。早さという点では、多くの方が、なお困難な仮設をはじめとする避難生活に耐えていらっしゃる、復興にはなお遠い状況にあることをお聞きし、拝見したからです。長さという点では、復興計画の策定と実施を多数の職員の方が被災されたもとの、着実に進めてこられた市当局や、住民のみなさんの取組が徐々に形となり始めていることを同時に実感させていただいたことにあります。困難な避難生活を一日も早く終わらせるためにも、復興公営住宅の建設や住宅再建のための支援金、支援制度拡充などをみなさんの要求実現に、私たちも微力をつくすことの必要性をあらためて強く感じました。

陸前高田市全体の復興の加速のためにも、私たちが今日見聞きすること、したことを全国に伝え、被災地のみなさんに全国が寄り添い続け、この地を訪れる状況を高めていくことの重要性を確認したところです。

残念ながら、今の政権、安倍政権は被災地の復興より、東京オリンピックに向けて公共投資に軸足を移しつつあるように思います。企業が世界で一番活動しやすい国を標榜し、あるいは戦争する国づくりを進めるために、社会保障を目の敵にしているかのような削減、年金も医療も介護も国の負担増を抑制し、給付を削って自己負担を増やす一方で軍事費は大盤振る舞いし、消費税増税の一方で、企業の法人税減税を行うという逆立ちの政治を進めています。あの小泉内閣の時に、社会保障費を毎年2200億円ずつ削りましたが、2015年度予算では自然増分だけで4000億円も圧縮するという、痛みの押しつけを行っています。こんな国民いじめの痛みを最も強く感じていらっしゃるのは被災された方々ではないでしょうか。

復興を求め、生活再建への支援の強化を求める取組とも一体で、そのような安倍暴走政治をやめさせるたたかいが大切だと思います。

その点でも、一緒に力を合わせていくことを申し上げ、全国災対連からのご挨拶にかえさせていただきます。